

令和3年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 槻田 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和3年5月27日(木)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 算数)

教科に関する調査(国語, 算数)

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査(国語, 算数)の結果

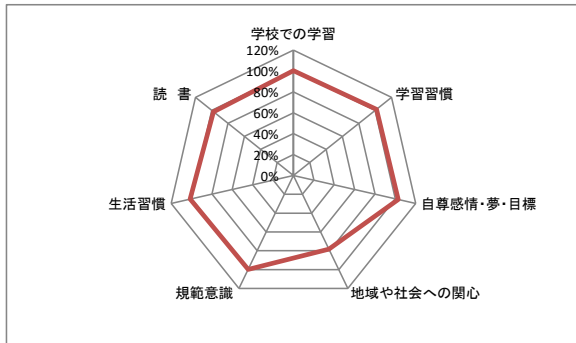
本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.8	63	11.0	69
全国	9.1	65	11.2	70

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	全国平均、本市平均ともに上回っていた。14問中10問で正答率が全国平均を上回った。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	目的に応じて話の内容が明確になるように構成を考える問題や、漢字の読み書きに関する問題の正答率が全国平均を大きく上回った。	
	努力が必要な問題	主語と述語の関係や修飾と被修飾との関係を捉える問題の正答率が全国平均より低かった。また、条件に合わせて記述する問題も低かった。	

算数	全体的な傾向や特徴など	全国平均、本市平均ともに上回っていた。16問中13問で正答率が全国平均を上回った。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	速さを求める割り算に関する条件付き記述問題や棒グラフから数量を読み取る問題の正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	平行四辺形の面積に関する問題や二次元の表に分類整理する問題の正答率が低かった。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・「毎日、同じぐらいの時刻に寝たり、起きたりしている児童が多い。家庭での規則正しい生活習慣が身に付いている。 ・「自分には、よいところがある」と思っている児童が比較的多い。自尊感情が高まっている。 ・今住んでいる地域の行事に参加している児童が少ない。また、地域や社会をよくしようとする気持ちをもっている児童も少ない。地域への関わりが少ないと思われる。 ・1日あたりの読書時間が短い児童が多い。読書をする環境や時間の工夫が必要である。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

<ul style="list-style-type: none"> ○問題文を読み取る力に課題があるため、複数の条件を提示した作文に取り組みせたり、「キーワード」を使って「まとめ」や「振り返り」を書かせたりする授業づくりを行う。 ○学習の基礎的な学力の定着を図るために、朝の会の時間で、タブレットや学習プリント、学習カード等を活用して、計算タイムを実施する。 ○より「わかった」「できた」を実感することができるように、ICT機器の有効な活用方法を研究していく。
--

② 家庭生活習慣等に関する取組

<ul style="list-style-type: none"> ○読書週間などを設けることで、追体験を通して情操を育成し、自分の周囲に対するアンテナを高くできるようにする。 ○自尊感情をさらに高めるために、よいところを見つけて「ほめる」、委員会活動や係活動などで活躍できる機会をつくることに積極的に取り組む。 ○今住んでいる地域に関心をもつことができるように、校外学習などを積極的に取り入れる。また、榎田川清掃など地域との連携を図り、地域の自然と関わりをもつ機会を設ける。
--